

●●●● 活動報告 ●●●●

毎月、この通信で活動状況を、お知らせすることにしました。

支援についてのアイデア・ご意見などがある方は、ぜひプロジェクトメンバーまでお寄せください。

1 講演会の開催

1) 外部講師を招いての講演会

日時:2011年7月12日(火) 13時10分から14時30分

講師:岩本 喜久子氏(札幌医科大学 特任講師)

藤嶋 美 世氏(認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン)

内容:被災地の子どもたちの心のケアに携わって

2) ケン神父のボランティア体験報告会

日時:2011年7月29日(金) 16時

2 節電対策

1階廊下の蛍光灯の間引きを実施し、12か所、計24本を間引きした。

また、節電に対する理解・協力を得るため、各教室とエレベーターにポスターを貼り呼びかけを行っています。

3 ボランティア支援

1) ボランティアに参加する学生向けにパンフットを作成しました。

2) ボランティアに参加を希望している学生向けの説明会を実施しました。

4 物資支援・募金活動

1) 7月22日(金)教職員親睦団体「白樺会」総会時に募金活動を行い、40,416円が集まりました。

2) 7月28日(木)理事会時に募金活動を行い、18,000円が集まりました。

3) 文部科学省子どもの学び支援ポータルサイトで情報を提供し、宮城県大崎市教育委員会に机40台、福島県大熊町立大熊中学校に机10台を寄贈しました。

●●● 活動報告 ●●●

毎月、この通信で活動状況を、お知らせしています。
支援についてのアイデア・ご意見などはいつでも歓迎します。ぜひプロジェクトメンバー までお寄せください。

1 節電対策

節電に対する理解・協力を得るため、各教室とエレベーターにポスターを貼り引き続き呼びかけを行っています。

2 ボランティア支援

- 1) 4名の学生が夏期休暇を利用しボランティア活動に参加を予定しています。活動内容等については、後日、報告会をする予定です。
- 2) 被災地用レシピーブックを作成するため、協力学生を募集しています。
- 3) 旅行会社が企画するボランティア活動ツアーについて情報を発信しました。興味のある方は、掲示のパンフレットでご確認ください。

3 物資支援・募金活動

マリアの宣教者フランシスコ修道会札幌修道院 様より多額の寄付金をいただきました。ありがとうございました。



2011.8.31
東日本大震災支援プロジェクト

●●● 活動報告 ●●●

毎月、この通信で活動状況を、お知らせしています。
支援についてのアイデア・ご意見などはいつでも歓迎します。ぜひプロジェクトメンバー までお寄せください。

1 節電対策

節電に対する理解・協力を得るため、各教室とエレベーターにポスターを貼り、引き続き呼びかけを行っています。

協力いただきました結果、9月末現在で電気の使用量が、昨年と比べて5.6%減少しました。

2 ボランティア支援

- 1) 看護学科3名、大学院助産研究科1名の学生が夏期休暇を利用し、ボランティア活動に参加しました。
学生の報告会を実施する予定ですので、ぜひお越しく下さい。
- 2) 被災地用レシピブックを作成するためのボランティア学生を募集したところ、学生1名から申し出がありました。引き続き、募集を行っています。

3 物資支援・募金活動

同窓会の協力を得て、「タキさんのお店」開店時に募金箱を設置します。
ご協力くださいますようお願いいたします。

※「タキさんのお店」の募金箱を設置しましたところ、10月6日に5000円の募金がありました。あたたかなご支援をありがとうございました。

4 その他

掲示物を随時、更新しています。定期的を確認してください。



2011.9.30
東日本大震災支援プロジェクト

●●● 活動報告 ●●●

毎月、この通信で活動状況を、お知らせしています。
支援についてのアイデア・ご意見などはいつでも歓迎します。ぜひプロジェクトメンバー までお寄せください。

1 節電対策

節電に対する理解・協力を得るため、各教室とエレベーターにポスターを貼り、引き続き呼びかけを行っています。

協力いただきました結果、9月末現在で電気の使用量が、昨年と比べて5.6%減少しました。

2 ボランティア支援

- 1) ボランティア活動に参加しました3名の学生の報告会を11月11日(金)に開催します。ぜひお越しください。
- 2) 被災地用レシピブックを作成するためのボランティア学生を募集したところ、葦の会被災地支援プロジェクトメンバーを含む6名の方から申し出がありました。また、製作費用として25,509円が葦の会より寄付されました。

3 物資支援・募金活動

- 1) 同窓会の協力を得て、「タキさんのお店」開店時に募金箱を設置しましたところ10月6日に5,000円の募金がありました。あたたかなご支援をありがとうございました。
次回は11月10日(木)に実施しますので、ご協力くださいますようお願いいたします。
- 2) カトリック札幌司教区を通じて岩手県宮古市へ支援物資を届けるための準備を行っています。発送は11月上旬予定です。



2011.10.31
東日本大震災支援プロジェクト

●●● 活動報告 ●●●

毎月、この通信で活動状況をお知らせしています。
支援についてのアイデア・ご意見などはいつでも歓迎します。ぜひプロジェクトメンバー までお寄せください。

1 節電対策

節電に対する理解・協力を得るため、各教室とエレベーターにポスターを貼り、引き続き呼びかけを行っています。

2 ボランティア支援

- 1) 2011年11月11日(金)に「東日本大震災復興支援学生ボランティア報告会」を実施しました。夏休みを利用し、東日本大震災で被災した岩手県宮古市にてボランティア活動を行った4名の学生のうち、大学院助産研究科2年次生1名および、看護栄養学部看護学科1年次生2名が報告を行い、ボランティア活動に参加しようと思ったきっかけや現在の被災地の状況等、体験談が話されました。
- 2) 被災地用レシピブックを作成しています。「火や水を使わないレシピ」や、「備蓄品・既製品で作れるレシピ」など、利用しやすい大きさやデザインを工夫した手軽なレシピブックを目指しています。

3 物資支援・募金活動

- 1) 同窓会の協力を得て、「タキさんのお店」開店時に募金箱を設置したところ11月10日に2,061円の募金が集まりました。あたたかなご支援をありがとうございました。次回は12月15日(木)に実施しますので、ご協力くださいますようお願いいたします。
- 2) 岩手県宮古市の宮古教会から要望のあった物資を送りました。これらの物資は、宮古市に到着後、現地のボランティアスタッフより必要としている方へ届けられました。
- 3) カトリック札幌司教区へ50,000円の寄附を行いました。

4 その他

東日本大震災に関する記事を本学ホームページに掲載しました。ぜひ、ご覧ください。

2011.11.30
東日本大震災支援プロジェクト



●●● 活動報告 ●●●

毎月、この通信で活動状況をお知らせしています。
支援についてのアイデア・ご意見などはいつでも歓迎します。ぜひプロジェクトメンバー までお寄せください。

1 節電対策

節電に対する理解・協力を得るため、各教室とエレベーターにポスターを貼り、引き続き呼びかけを行っています。

2 ボランティア支援

1) 新メンバー1名が加わり、現在、7名の方が被災地用レシピブックの年度内の完成を目指して活動しています。12月22日の会合では、具体的なアイデアも出されました。

3 物資支援・募金活動

- 1) 同窓会の協力を得て、「タキさんのお店」開店時に募金箱を設置したところ12月15日に5,026円の募金が集まりました。あたたかなご支援をありがとうございました。
- 2) 12月21日の教職員クリスマス会において募金の協力依頼をしましたところ、79,265円の募金が集まりました。あたたかなご支援をありがとうございました。
- 3) 被災者への応援メッセージを書いたボードを12月22日に岩手県の宮古教会に送りました。宮古教会からお礼の手紙が届いています。掲示していますのでぜひご覧ください。
- 4) 支援物資としてタオル等の提供を依頼したところ、多くの皆さんが協力してくださいました。提供いただきましたタオルは、今後、雑巾に変身し被災地へ届けられます。

4 その他

東日本大震災に関する記事を本学ホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



●●● 活動報告 ●●●

毎月、この通信で活動状況をお知らせしています。
支援についてのアイデア・ご意見などはいつでも歓迎します。ぜひプロジェクトメンバー までお寄せください。

1 節電対策

節電に対する理解・協力を得るため、各教室とエレベーターにポスターを貼り、引き続き呼びかけを行っています。

2 ボランティア支援

- 1) 7名の学生が被災地用レシピブックの作成に取り組んでいます。1月10日と17日に会議を開催し、具体的な献立に向けて検討を行いました。
- 2) 助産研究科2年次生1名が、1月24日からカトリック札幌司教区を通じて岩手県宮古市でボランティア活動に参加しています。

3 物資支援・募金活動

- 1) 葦の会から本プロジェクトに、50,000円のご寄付を頂きました。
皆さまから頂いたご厚志は、支援物資資金、学生ボランティア支援資金、およびプロジェクト活動資金として大切に使用させていただきます。
あたたかなご支援に心より感謝申し上げます。

4 その他

東日本大震災に関する記事を本学ホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



●●● 活動報告 ●●●

毎月、この通信で活動状況をお知らせしています。
支援についてのアイデア・ご意見などはいつでも歓迎します。ぜひプロジェクトメンバーまでお寄せください。

1 節電対策

節電に対する理解・協力を得るため、各教室とエレベーターにポスターを貼り、引き続き呼びかけを行っています。

2 ボランティア支援

- 1) 7名の学生が被災地用レシピブックを作成中です。3月5日に実施した試作会の模様は3月9日の毎日新聞に掲載されました。
- 2) 1月24日から2月13日の間に助産研究科2年次生1名、看護学科1年次生3名の計4名がカトリック札幌司教区を通じて岩手県宮古市でボランティア活動に参加しました。

3 物資支援・募金活動

- 1) 岩手県宮古市でボランティア活動に参加した学生から被災地ではサイズの大きい衣類が不足していたとの情報を得たので、防寒着(フリース・ウィンドブレーカー)およびインナーウェアを計85着(67,000円相当)、購入し現地へ送付しました。
3月8日に送付先の札幌カリタス宮古ベースの担当者から現地の様子を写した写真と礼状が届きました。掲示しましたのでご覧ください。

4 その他

東日本大震災に関する記事を本学ホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



●●● 活動報告 ●●●

今年度より「東日本大震災復興支援プロジェクト」に名称を改めました。引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。アイデア・ご意見などいつでも歓迎します。ぜひプロジェクトメンバー までお寄せください。

1 節電対策

節電に対する理解・協力を得るため、各教室とエレベーターにポスターを貼り、引き続き呼びかけを行っています。

2 ボランティア支援

- 1) 7名の学生が取り組んだ「被災地用レシピブック」が間もなく完成します。完成したレシピブックは、宮古教会などを通じて被災地の方々にお届けする予定です。
- 2) 2月・3月に岩手県宮古市でボランティア活動に参加した学生4名の報告会を6月20日(水)に開催します。現地での活動内容や被災者との交流等、興味深い内容になっています。ぜひ参加ください。

3 物資支援・募金活動

天使祭でブースを設け次の3つを行います。

- 1) 被災地の産物販売 : 産物販売での売り上げはすべて札幌司教区を通じて札幌カリタスに寄付されます。
- 2) レシピ集の実物品展示 : レシピ集からメニュー数点を実際に作り、展示します。また、試食品も用意します。
- 3) パネル展 : これまでの活動やボランティア学生の活動内容を展示します。

4 その他

東日本大震災に関する記事を本学ホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



2012.5.31
東日本大震災復興支援プロジェクト

●●● 活動報告 ●●●

今年度より「東日本大震災復興支援プロジェクト」に名称を改めました。引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。アイデア・ご意見などはいつでも歓迎します。ぜひプロジェクトメンバー までお寄せください。

1 ボランティア支援

- 1) 有志の学生7名が主体となって”火や水を使わない”、”短時間で作れる”、”備蓄品・既製品を活かす”をキーワードに作成した「アレンジレシピ集」が完成し、みやぎ心のケアセンターや仙台教区へ送付しました。
また、夏には被災地でボランティア活動を行う予定の学生が、直接、住民の方に配布する予定です。
- 2) 6月20日(水)にボランティア報告会を開催し、春休みを利用して被災地にてボランティア活動に従事した4名の学生(看護学科2名・栄養学科2名)が「被災地へ赴いた経緯」、「現地の状況」、「被災地の人々のために我々が出来ること」などについて報告を行いました。
参加学生からは「費用や交通手段など具体的に知ることができた。」「自分もボランティアに参加したいと思った。」などの感想がきかれました。

2 物資支援・募金活動

- 1) 天使祭2日目の6月16日(土)に「被災地の物産販売」、「アレンジレシピブックの試食会」、「復興支援プロジェクトパネル展」のブースを設けて復興支援活動を行った。産物販売では、「鮭の燻す」と「中村屋せんべい」は完売し、「絵はがき」と「イカのストラップ」もそのほとんどが売れ、盛況であった。売上は全額、カトリック札幌司教区を通じて被災地への寄付とした。
- 2) 文部科学省が開設した「東日本大震災・子どもの学び支援ポータルサイト」を通じて、東日本大震災で被害にあった宮城県大崎市教育委員会、福島県大熊町立大熊中学校およびNPO法人アジア繊維流通機構へ会議机を支援提案したことに対し、文部科学省生涯学習政策局長より感謝状が贈呈された。

2012.6.30
東日本大震災復興支援プロジェクト



復興支援プロジェクト通信 Vol.11

●●● 活動報告 ●●●

プロジェクトでは、随時、アイデア・ご意見などを募集しています。
ぜひプロジェクトメンバー までお寄せください。

1 ボランティア支援

1) 7名の学生が夏休みを利用して被災地でボランティア活動を行いました。今回、3名の学生が初めて活動に参加しました。少しずつ、ボランティア活動の輪が広がってきました。

被災地での活動にかかわらず、何かしらボランティア活動を行いたいと考えている方は是非、プロジェクトメンバーまでお申し出ください。

2) レシピ集の第2弾として「被災地でも楽しめる季節の行事食ーちょっと折り紙を添えて(仮)」を来春に発行する予定です。現在、24名の学生が作成メンバーとなり活動をしています。

アイデアがあればプロジェクトメンバーまでお寄せください。

3) 6月に完成しました「アレンジレシピ集」は要望のあった札幌教区、仙台教区およびNPO法人ピースウィンズジャパンに送付しました。

2 物資支援・募金活動

1) 8月7日(火)～8月10日(金)に教職員へ募金の協力を呼びかけたところ、多くの皆さまからご賛同を得、15,500円が集まりました。
皆さまのご支援に感謝いたします。



2012.8.31
東日本大震災復興支援プロジェクト

復興支援プロジェクト通信 Vol.12

活動報告

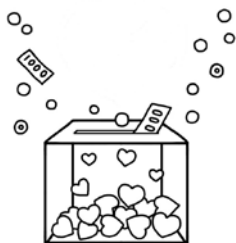
プロジェクトでは、随時、アイデア・ご意見などを募集しています。
ぜひプロジェクトメンバーまでお寄せください。

1 ボランティア支援

- 1) 夏休みにNPO法人ねおすを通じて岩手県釜石市の商店街でボランティア活動をした栄養学科2年次生の金川彩華さんと仁部志保さんに対して、商店街の方から感謝のお電話がありました。
- 2) レシピ集「被災地でも楽しめる季節の行事食ーちょっと折り紙を添えて(仮)」を作成中です。25名のボランティア学生は行事ごとに分かれ、被災地の特産品を使ったメニューを考案中です。
また、料理に華を添える折り紙は非常勤講師の梶浦真由美先生からアイデアをいただき掲載する予定です。

2 物資支援・募金活動

- 1) 天使大学同窓会関東支部の皆様よりご寄付をいただきました。
頂いたご厚志は、支援物資資金、学生ボランティア支援資金、およびプロジェクト活動資金として大切に使用させていただきます。
あたたかなご支援に心より感謝申し上げます。



2012.10.31
東日本大震災復興支援プロジェクト



復興支援プロジェクト通信 Vol.13

●●● 活動報告 ●●●

プロジェクトでは、随時、アイデア・ご意見などを募集しています。
ぜひプロジェクトメンバーまでお寄せください。

1 ボランティア支援

- 1) 1月15日(火)のアッセンブリーで被災地にてボランティア活動を行った4組の学生の報告会が開催されました。
4組の学生は、それぞれの活動団体を通じてボランティア活動に参加し、復興支援に携わっただけでなく、自分自身にとっても実り多い学びを得たと報告してくれました。
アンケートには「忘れかけていた震災での出来事を考え直し再確認することができた」「具体的なことをたくさん聞いて良かった」などの感想があり、報告会后にはボランティアの申し込みに関するの問い合わせが何件もありました。
- 2) レシピ集「東北の食材を用いた季節のお祝いレシピ～心が和む折り紙を添えて～」の作成が進んでいます。試作・検討を重ね、ようやくメニューが決定しました。
参加学生25名は春休み返上で頑張っています。

2 物資支援・募金活動

- 1) 12月20日の教職員クリスマス会において募金の協力依頼をしましたところ、45,651円の募金が集まりました。あたたかなご支援をありがとうございました。



2013.1.31
東日本大震災復興支援プロジェクト



復興支援プロジェクト通信

Vol.14

●●● 活動報告 ●●●

プロジェクトでは、随時、アイデア・ご意見などを募集しています。
ぜひプロジェクトメンバーまでお寄せください。

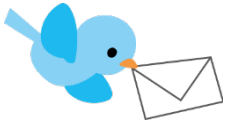
1 ボランティア支援

- 1) 被災地ボランティア参加講習会(仮称)を開催予定です。
7月に、外部講師をお招きしてのボランティア参加講習会の開催を予定しています。
詳細が決まりましたら、改めて掲示板でお知らせいたします。

2 被災地支援・募金活動

- 1) レシピ集第2弾「東北の食材を用いた季節のお祝いレシピ～心が和む折り紙を添えて～」が完成しました。被災地への送付するほか、一口1,000円の支援金をくださった方に贈呈いたします。
- 2) 天使祭に出店しました。
 - ・パネル展示「キヲクのキロク」、本プロジェクトの活動報告、レシピ集などを展示
 - ・レシピで紹介した食材や東北の特産物の販売、それを使用した料理の展示と試食販売した産物はほぼ完売いたしました。
売り上げは、被災地の支援活動に使わせていただきます。
ご協力ありがとうございました。
- 3) 5月18日に開催された天使大学同窓会総会で、総額41,720円の募金をいただきました。また、天使祭(6月15日)で募金活動を行い、43,581円の募金が集まりました。
温かなご支援をいただき、ありがとうございました。

2013.6.21
東日本大震災復興支援プロジェクト



復興支援プロジェクト通信 Vol.15

●●● 活動報告 ●●●

プロジェクトでは、随時アイデア・ご意見などを募集しています。
ぜひプロジェクトメンバーまでお寄せください。

1 ボランティア支援

7月9日(火)のアッセンブリーアワーにおいて、札幌市カリタス宮古ベース世話人(カトリック月寒教会所属)の和田真一氏をお招きし、ボランティア講演会を開催しました。

東日本大震災の被災状況を津波の映像も通して改めて確認し、岩手県宮古市での傾聴ボランティア活動が今でも要望があり続いていること、若い人がボランティアで来てくれることで被災された方々に元気を与えていることなど、ボランティアの世話人をされた立場からお話がありました。

感想には「被災地は2年経った今も大変だということがわかった」「改めて震災を忘れてはいけないと思った」「ボランティアに参加してみたいと思った」など寄せられていました。

夏季休暇を活用してボランティアへの参加を考えている方や興味のある方は、プロジェクトメンバーまでお申し出ください。

2 被災地支援・募金活動

レシピ集第2弾「東北の食材を用いた季節のお祝いレシピ—心が和む折り紙を添えて」を、被災地への送付する他、支援金いただいたご希望の方へ、一口1,000円の支援金につき1冊レシピブックを配布しています。

2013年8月1日現在で315冊が配布されました。たくさんの支援金に感謝いたします。

2013.8.7
東日本大震災復興支援プロジェクト



●●● 活動報告 ●●●

1 ボランティア支援等

9名の学生が、夏休みに被災地(岩手県釜石市・宮城県気仙沼市)にボランティアに行ってきました。初めてボランティアに行った学生も多く、貴重な体験となったようです。

今後、この体験についてのボランティア報告会と、被災地の方をお招きしての講演会を予定しています。詳細は後日改めてお知らせします。

2 被災地支援・募金活動

1) カフェドルフィンとコラボし、レシピの料理がランチメニューになりました。「東北の食材を用いた季節のお祝いレシピ」および「天使大学のレシピBOOK Vol.1」に掲載された料理が、8月5日(月)～10日(土)のカフェドルフィンのランチメニューとして提供されました。

当日は、学生も配膳などのお手伝いを行いました。

また、レジカウンターにレシピブックと募金箱を設置していただき、1,790円の支援金をいただきました。

2) 栄養学科3年生が、現地ボランティアスタッフと共に本プロジェクトのレシピブックの料理を作って提供しました。

ボランティアセンターでの食事として、「北海道らしい」スープカレーとザンギを作り、料理はみなさんに大好評だったようです。

この報告の詳細は別途掲示板をご覧ください。

3) 各イベントで募金箱を設置していただき、以下のとおり募金をいただいてレシピブックを配布しました。たくさんのご厚志をありがとうございました。

| | |
|-----------------------|-----|
| 天使大学後援会父母懇談会 | 26冊 |
| 東区児童会館まつり2013 inアリオ札幌 | 3冊 |
| 天使大学・北海道薬科大学連携公開講座 | 15冊 |





復興支援プロジェクト通信 Vol.17

●●● 活動報告 ●●●

プロジェクトでは、随時アイデア・ご意見などを募集しています。
ぜひプロジェクトメンバーまでお寄せください。

1 レシピ集を活用した料理教室とボランティア活動報告

赤いエプロン(男が料理を作る友の会)の第150回記念例会が10月23日(水)10時から札幌エルプラザで開催され、栄養学科4年生の有志6名が料理指導と被災地支援ボランティアの活動報告を行いました。

「レシピ集の中から男性高齢者でも作れる調理を作ることで、被災地とボランティア活動を応援したい」という赤いエプロンメンバーの想いを受けて、本プロジェクトが作成したレシピ集第2弾「東北の食材を用いた季節のお祝いレシピー心が和む折り紙を添えて」の中から、かぶとごはん、カレー風味のコーンしゅうまい、和風味噌シチュー、洋なしシャーベントの4品を参加者30名と一緒に楽しく作りました。

料理試食後の座談会では、ボランティア活動を体験した学生3名が瓦礫撤去、漁業支援、お茶っこ(お茶会)など、関わった活動と被災地の様子を紹介しながら、ボランティア活動を通じて感じたこと、学んだことを伝え、参加者と意見交換をしました。参加者の皆さまから、「被災地の現場の様子や思いが伝わった」「自分たちもできることを探したい」などの感想をいただきました。

本プロジェクト掲示板に料理教室当日の報告を別途掲示していますので、ぜひご覧ください。

2 講演会およびボランティア活動報告会の開催

1月14日(火)のアッセンブリーアワーで、岩手県釜石市の保健師 水野由香里氏をお招きし、「保健師から見た東日本大震災～被災地の現状とボランティア活動支援に期待すること～」と題して講演会を開催します。合わせて、夏季休暇を利用してボランティア活動を行った栄養学科1年生の活動報告も行います。この講演会の詳細は別途掲示板をご覧ください。



2013.12.4
東日本大震災復興支援プロジェクト

復興支援プロジェクト通信 Vol.18

活動報告

1 講演会・ボランティア報告会

1月14日(火)のアッセンブリーアワーで、岩手県釜石市から保健師の水野由香里氏をお招きし、講演会「保健師からみた東日本大震災」を開催しました。

釜石市における東日本大震災の被災状況や震災後の保健活動についてお話しがあり、被災時は自主的な判断力や行動力が求められることや、こころのケアをはじめとした専門職やボランティアの方が釜石市を支援してくれることに感謝しているといったお話がありました。

アンケートには「保健師が震災でどんな仕事をしていたのかがよく分かった」、「講演だからこそ伝わる震災の大変さを感じることができました」、「これからはもっと興味を持ってメディアのニュースに耳を傾けたいと思う」などの感想が寄せられました。

講演会後には、夏休みを利用して岩手県釜石市でボランティア活動を行った栄養学科1年生3名の学生の報告会も開催されました。

3名は、自分たちが見たこと、感じたことをパワーポイントで紹介し、ボランティア活動を行った際は、自分たちの体験を他の人に伝えることが大切であると報告してくれました。

アンケートには、「1年生の言葉はどの学年、先生方にも響いたと思う」、「震災からもうすぐ3年たった今でも、私たちにできることはたくさんあると思いました」などの感想が寄せられました。

休暇を活用してボランティアへの参加を考えている方や興味のある方は、プロジェクトメンバーまでお申し出ください。

2 募金活動

12月19日の教職員クリスマス会において募金協力を呼びかけたところ、多くの皆様からご賛同を得、50,333円が集まりました。皆様のご支援に感謝いたします。

2014. 1. 21
東日本大震災復興支援プロジェクト





復興支援プロジェクト通信 Vol.19

●●● 活動報告 ●●●

1 天使祭への出店

今年度も天使祭に出店しました。6月14日(土)の午前11時から午後3時にかけて、7103実習食堂に「東日本大震災被災地支援コーナー」と題したブースを設け、東北の伝統料理「せんべい汁」(1杯100円)と被災地から仕入れた産物を販売しました。

気温が比較的高かったにもかかわらずせんべい汁は大変好評で、用意した118杯が完売、せんべいを中心に仕入れた被災地の産物も完売しました。

また、来場者の皆様に本プロジェクトのこれまでの活動を知っていただくため、資料を作成して実習食堂のテーブルに展示しました。期間中は多くの方々を目を通していただけたようです。

震災の発生から3年以上が経過し、その記憶も薄れつつありますが、復興支援プロジェクトでは、今後も被災地への支援活動を継続していきたいと考えています。ご協力とご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します。

2 ボランティア報告会・説明会

7月15日(火)のお昼休みに、ボランティア報告会&説明会を開催しました。

報告会では、2月に「三陸ひとつなぎ自然学校」を通じて岩手県釜石市でボランティア活動を行った栄養学科4年生から報告をしてもらいました。

今回は「子ども雪遊びキャンプ」のお手伝いがメインの活動だったそうですが、そのほかにも35人分のご飯を作る大量調理など、栄養学科での学びを大いに発揮できたようです。また、参加する際の申し込み方法や交通手段、費用なども具体的に紹介され、「行ってみたいけど、どうすればいいのだろう?」と思っていたみなさんには嬉しい情報だったのではないのでしょうか。

報告は、「一生忘れられない経験と思い出ができるのでぜひ被災地ボランティアに行ってほしい」という言葉で締めくくられました。

報告会の後には、参加する際に必要な学内手続きなどの説明会、参加者からの質問・疑問を解決する意見交換会が行われました。

3 募金活動

震災から3年目となる3月11日から14日にかけて、教職員への募金協力を呼びかけたところ、10,500円の支援金を頂きました。

天使祭では、来場された皆様から頂いた2,040円の支援金と、被災地の産物販売収益を合わせ7,007円の支援金となりました。

皆様のご支援に感謝いたします。

復興支援プロジェクト通信 Vol.20

活動報告

1 震災ボランティア報告会

1月13日(火)のアッセンブリーアワーで、HOSUP(北海道学生震災支援ネットワーク)と本学震災ボランティア参加者による震災ボランティア報告会を開催しました。

HOSUPは北海道大学の学生が中心となり発災2日後から活動している団体で今回は2名をお招きし、立ち上げの経緯や活動内容、活動から得た学びについて講演していただきました。

震災から2年が経過し、被災地が変化していく中で実際現地に行き「北海道にいる自分たちに何ができるか」と現地の方に直接聞いてそのニーズに合うように活動を変更したという柔軟で行動力のある活動は学生、教職員にも大変参考になるお話でした。

ボランティア報告会では夏休み期間にカリタスジャパンを通じて岩手県宮古市に傾聴活動に行った看護学科3年生、5名の発表が行われました。

学生の間にはボランティア活動には参加できないだろう、大学から補助も出るし行ってみようかなという気持ちからだったが、被災地に行くと被災された方のお話を聞くことはそれだけでも学びになり得るものがあったと話してくれました。

報告から「ボランティアに行くと何かしなければならない」と気負うよりも被災地に行き現状を自分の目で見ることで、そして現在も求められている傾聴活動の大切さを改めて感じることができました。

2 募金活動

12月18日(木)の教職員クリスマス会で募金をお願いし、皆様の温かいご協力により、総額 53,412円のご寄附をいただきました。

皆様のご支援に感謝申し上げます。



2015.1.20
東日本大震災復興支援プロジェクト

復興支援プロジェクト通信 Vol.21

活動報告

1 震災ボランティア報告会

6月2日(火)のアッセンブリーアワーで、2014年度に被災地でボランティア活動を行った看護学科と栄養学科の学生によるボランティア報告会を開催しました。

看護学科の3名からは、岩手県宮古市の仮設住宅等での傾聴や足湯、手もみ等の活動や、3月11日に参加した追悼ミサの様子が報告され、最後は3月11日に東北の新聞社3社合同の新聞に掲載された「東北は元気です。ですが、じゃあもう大丈夫、というわけではないのです。」という印象的なメッセージで締めくくられました。

栄養学科の5名は、岩手県釜石市内の旅館のメニュー開発ボランティアの体験について報告してくれました。

仮設住宅に宿泊し、被災地の方の生活を実体験した一方で、旅館のメニュー開発という、大学での学びを大いに発揮できたボランティア活動だったようです。

参加者からは、「震災から4年もたっているのに、8万人もの人々がまだ仮設住宅に住んでいるのは、復興にはまだまだ時間がかかるということなんだと思った」という感想が寄せられ、被災地への支援はこれからも必要であることを改めて感じました。

また、今回はボランティアにあたっての事前準備や東北までの交通手段、チケットの購入方法等も報告してもらったことで、「ボランティアをしたいと思ったら、東北でも行けるんだと感じた」という嬉しい感想もありました。

この報告会をきっかけに、ボランティア活動に興味を持ち、被災地へ足を運んでくれる学生が増えることを期待しています。

2 天使祭への出店

今年も6月13日(土)の天使祭に被災地復興支援コーナーを出店しました。

当日は、多くの方にお越しいただき、被災地から取り寄せた産物もほぼ完売、せんべい汁は最後には足りなくなるほどの盛況ぶりでした。

会場の机の上に設置した活動紹介等も多くの方に見て頂き、震災と被災地について思い起こしていただく機会になったと思います。

2015.6.24
東日本大震災復興支援プロジェクト



●●● 活動報告 ●●●

1 震災復興支援シンポジウム

10月22日(火)のアッセンブリーアワーで、震災復興支援シンポジウムを開催しました。

テーマは「震災から5年目をむかえて:いま私たちにできること」とし、講演では宮城県土木部復興まちづくり推進室室長茂泉博史氏と福島県保健福祉部健康増進課小野喜代子氏をお迎えしました。

復興にともない、仮設住宅からの集約化などで新たなコミュニティづくりが進められていく中で、地域でのつながりを再構築し、健康支援を含めたまちづくりの推進が課題であること、移転に伴い生活が変化することでのストレスや健康課題への対応などそれぞれの県の現状を踏まえてお話がありました。

後半では教養教育科目時先生と看護学科小澤先生をコーディネーターとし、仙台教区サポートセンター濱山麻子氏と看護学科卒業生、栄養学科在学生を加えた5人で「いま私たちにできること」の観点からディスカッションを行いました。

日頃から地域で互いを気にかけて合う顔の見える関係づくりが、震災のような非常時においても助けあうことのできる備えとなること、連絡体制を整えておくことなどが話し合われていました。

復興は進められていても、人の心はまだ復興していないという言葉もあり、ハード面のみならず、人と人、人と地域のつながりを育むような息の長い支援が必要とされていることを改めて確認したシンポジウムでした。

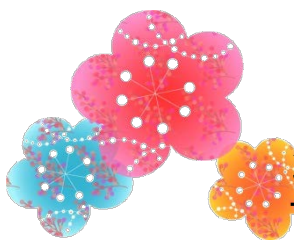


2 ボランティア講習会を開催します

2016年1月15日(金)18時10分から「コミュニケーションスキルを学ぼう～心にいたみを抱えた方へのアプローチ法～」と題してボランティア講習会開催します。

講習会はワークショップ形式で、医療従事者をめざす皆さんにとって、今後の実習や就職後の現場でも役立つ実践的な内容となっていますので、ぜひ参加してください。詳細はプロジェクトの掲示板でご確認ください。

2015.12.14
東日本大震災復興支援プロジェクト



1 震災復興支援ボランティア講習会を開催しました

1月15日(金)18時10分から、「コミュニケーションスキルを学ぼう～心にいたみを抱えた方へのアプローチ法」と題した震災復興支援ボランティア講習会を開催しました。

ボランティア活動で被災地を訪れた経験のある学生の「被災された方々との上手なコミュニケーションの取り方がわからず戸惑った」という声を受け、この講習会を開催することになりました。

心理カウンセラーの下山寿美子氏、本田江里子氏の2名を講師に迎え、以下4つのポイントについて教えて頂きましたので、その一部をご紹介します。

ボランティア活動のみならず、将来医療職者として働くときにも活用できると思います。

● 話の聞き方

- ・「何か心を軽くするようなことを言ってあげなければ」と思わなくてよい
- ・質問せず、話したいことだけを自分のペースで話せるよう、言葉が出ない時間(沈黙)も一緒に過ごす。

● ポジショニング(話を聴く時に、自分(心)を安定させる効果のある姿勢)

- ・椅子には深く腰掛ける
- ・体の中心に、1本筋が通っていることをイメージする
- ・一度大きく伸びをしたあと脱力して、体の力を抜く
- ・自分の周りは、大きなシャボン玉で囲まれているようなイメージをする
- ・立って聴くときは、足を肩幅に開く

● セルフケアの大切さ(話を聴く方のリフレッシュも重要)

- ・湯船につかる(体を温め、筋肉の緊張を緩める)
- ・好きな香りのアロマでリラックスする
- ・栄養バランスの良い食事を摂る

● プラスのストローク

- ・きちんと口に出して伝える+褒められた時にきちんと受け取る
=自己肯定感を養う
- ・自分で自分を褒めることもメンタルを強くすることに繋がる

また、被災の程度が軽く「自分はまだましな方なのだから」と辛い気持ちを出したり泣くことを我慢しがちで回復が遅れてしまう方がいること、明るい交流の場には出たくないけれど、静かに語る場面では気持ちを出すことができる方がいること、ボランティアが減り、自分たちが取り残されていると感じる方がいることなどのお話もあり、被災地へ足を運ぶことや傾聴活動の重要性を改めて感じました。